

1. 評価結果(概要表)

作成日 平成21年 2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢		
所在地 (電話番号)	仙台市太白区富沢字寺城28-1 (電話) 022-307-5317		
評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年4月9日

【情報提供票より】(20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26人	常勤 22人, 非常勤 4人, 常勤換算	23.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,100 円	その他の経費(月額)	無	実費
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	又は1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	27 人	男性	3 人	女性	24 人
要介護1	6 人	要介護2	10 人		
要介護3	7 人	要介護4	4 人		
要介護5	人	要支援2	人		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関	仙台富沢病院
--------	--------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に位置しており、近隣には同一法人が運営する病院、今年度開所した小規模多機能型居宅介護施設がある。入居者が同法人のデイケアへの参加したり、職員が病院主催の研修会に定期的に参加するなど連携した取り組みがなされている。ホームはユニットごとに目標を取り決め独自性を発揮している他、地域との関係性にも力を入れており、日常的なコミュニケーションなどの付き合いに加え、お祭り等の行事を通じての交流や、保育園の園児との交流も活発に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で見いだされた課題5項目のうち、「同業者との交流を通じた向上」以外の項目は改善されている。同業者との交流については、ホーム内で検討が進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員全員が評価の意義とねらいについて理解し、取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームでの日々の取り組みや外部評価の結果や取り組みについての報告、話し合いの他、参加者から地域の情報をもらうなど情報交換の場としても活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来訪の際、利用者の様子が伝えられており、同時に家族の要望を引き出せるように配慮している。出された要望に対しては、ユニット会議等で検討され運営に反映する取り組みがなされている。また、ホームでの生活の様子を伝える便りや写真、出納帳のコピーを毎月送付している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民がホームの行事にボランティアとして参加している。また、向かいの保育園で行われる行事や町内会の活動にも参加し、地域との交流が活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	理念は事業所独自で作られ、それに基づいて各ユニットごとに目標を毎年作成している。目標は、家庭的な雰囲気重視し、地域との関係性を謳ったものになっている。1年に1回にユニットごとに評価し、次年度に向けた目標を検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標について、ユニット会議や申し送りの場で話し合われており、職員全員が理解している。また、言葉掛けや態度など日々のサービス提供において理念を意識し、実践の中に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町内会に加入し、町内会の秋祭り、防災訓練、清掃活動に参加している。また、ホームの行事にボランティアとして地域住民を受け入れたり、保育園の収穫祭、クリスマス会に参加するなどし交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価で見いだされた課題について、改善計画書が作成され取り組みが行われている。評価の意義とねらいについて管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、町内会副会長、民生委員、法人関連機関職員等が参加し、ホームでの日々の取り組みや評価の結果報告や話し合いが行われている。メンバーから出された意見や要望は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所が発行する広報紙を郵送し、事業所を理解してもらうための働き掛けを行っており、市の担当者と顔の見える関係ができており、ホームでの課題を気軽に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度、手紙や写真を送付している。家族が来訪の際には、職員から入居者の生活の様子が伝えられている。金銭管理については、月1回出納帳のコピー等を送付し報告している。また、職員の異動があった場合には、書面や電話にて家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情受け付け窓口、第三者委員を入居者、家族に説明している。寄せられた意見や要望に対しては、その場に対応したり、ユニット会議で検討し、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を重視し、異動は最小限に抑えるように努めているが、離職による職員交代が多く、十分に引き継ぎができないこともあった。	○	入居者がダメージを受けないよう、職員交代の際は十分な引継ぎ期間を持ち、異動を最小限に抑える取り組みが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進しながら、定期的に内部で勉強会も開催している。また、同法人の病院が主催する研修会にも参加している。全職員が内部・外部の様々な研修に参加できるように配慮されており、研修参加後は、復命書の作成や伝達研修も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部の研修会参加をきっかけに情報交換を行っているが、宮城県認知症グループホーム連絡協議会等への加入はしておらず、同業者と交流する機会が限られている。	○	同業者同士の意見交換や交流を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいくことが望まれる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、見学、体験入所を行い、本人、家族にホームの雰囲気を感してもらいながら、納得して利用してもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	職員は入居者と共に支え合う関係を大切にしており、料理や洗濯等様々な場面で入所者から教えてもらうことも多く、職員は感謝する気持ちを持って接している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の生活の様子や言動から、一人ひとりの思いや意向について把握するように努めている。また、家族の来訪時に入居者についての情報を聞き支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットの職員がアセスメントを行い、家族や主治医からの意見を取り入れながら作成担当者が入所者一人ひとりにあった介護計画を作成している。作成された介護計画は、職員会議で共有されており、家族にも説明し、同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度は介護計画について入居者、家族の意向を確認している。主治医の意見を参考に職員会議で話し合い、最低3ヶ月に1度の見直しが行われている。また、状況の変化がある際は随時見直しが行われている。見直された内容について、家族の同意を得て渡している。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、法人内のデイケアの利用、外泊支援など必要な支援には柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は状況に応じて職員が付き添いを行っており、受診後は電話で家族に報告することで合意されている。医療機関とは良好な関係ができています。また、天候により通院が困難な場合には協力医療機関に往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、看取りの指針について説明し書面で同意を得ている。また状況の変化に応じて家族、医師、職員間で繰り返し話し合い、段階的な合意に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについて取り決めがあり、入居者を尊重し、個々に合わせた言葉、態度、接し方に配慮がなされている。しかし、個人記録については職員以外の人の目が触れる場所に保管されている。	○	個人記録について、外部の目に触れないように保管することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者の生活のリズムに配慮し、起床、入浴、食事、を本人のペースで過ごせるよう柔軟に対応されている。また、一人ひとりの「その日したいこと」を、日々の働き掛けや会話の中から汲み取り、希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が共に協力し合い、食事の準備や調理、後片付けを行っている。食材は旬なものや入所者の好む物も取り入れ、職員が入所者と同じ食卓を囲み同じものを食べながら、和やかな雰囲気できりげないサポートを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入所者の希望に合わせて入浴ができるように配慮している。入浴を拒む方については、拒否の理由を職員間で検討し、時間帯や声掛けを工夫して対応している。また、入浴剤を入れる等、入浴を楽しむことが出来る支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが掃除・洗濯などの役割や楽しみごとを持ってもらえるよう、配慮している。以前得意としていた歌や踊りを披露してもらう際は、成功体験を感じてもらえるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	個別に近所への散歩や買い物、馴染みの美容室へ外出支援している他、月1回はユニットごとに外出や外食をしている。歩行困難な方は車椅子を利用し、通院や買い物の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。また、一人ひとりの外出傾向を把握しており、近隣の方々にも理解を求め、見守り、声掛け、連絡をしてもらえる関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	マニュアルが作成され、地域住民の参加協力を得ながら夜間想定を含む防災訓練が年2回実施されている。避難経路の確保、消火器等設点検も行われており、非常用食料、ヘルメットなどの備品も準備されている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量については、チェック表を作成しており、月1回体重測定も行われている。献立については入居者の嗜好を踏まえて作成され、3か月に1回、同法人の管理栄養士から指導や助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量、室温の調節が適切に行われており、臭気や空気の汚れはない。時計、暦が見やすい場所に設置されており、季節感が感じられるよう、入居者が作成した装飾も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事用の茶碗や、居室内の家具は馴染みのものを持参してもらい、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		